



船橋市議会議員（市民民主連合）

立憲民主党  
The Constitution Party

# 浦田秀夫通信

自宅 船橋市松が丘 4-31-5 TEL・FAX 047- 466-6019

事務所 船橋市高根台 6-38-9 TEL・FAX 047- 461-1350

135号（2020年秋季）

メール urata.hideo.1950@gmail.com ブログ浦田秀夫で検索

## 検査体制の飛躍的拡充を求める

令和2年第3回定例会市議会の一般質問で、新型コロナウイルス検査体制の飛躍的拡大やコロナ禍でも笑顔のある学校について、台風シーズンを迎えるに当たっての防災対策や新型コロナウイルス感染症をふまえた複合災害の備えについて、オスプレイの習志野演習場での訓練について質問しました。

### 1日180件に検査能力を拡充

新型コロナウイルスの感染状況は、3月～4月の第1波、7月～8月の第2波と続き、これから秋から冬にかけて、インフルエンザの流行と重なる第3波の到来が懸念されています。

こうした中、新型コロナウイルス検査体制の飛躍的拡充は喫緊の課題です。

私は、第2回定例会で船橋市でも最低1日500件程度の検査能力を確保する必要があるとして、PCR検査センターの設置や民間検査機関の活用、さらには抗原検査など検査体制の拡充を求めました。

市は、9月から新たなPCR検査機器を導入し、1日当たり180件に検査能力を拡充しました。

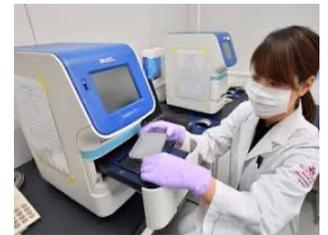
また、21の医療機関と契約し、行政検査として医師の判断による民間検査機関での検査が8月末までに571件行われました。

さらに、高齢者施設に入所する方や職員やスタッフ約5,000人に対してPCR検査を定期的に検査することを検討しているとのことでした。

市が行政検査の対象者を拡大し、検査能力の拡充に努力してきたことは評価しました。

### 社会的検査のできる体制の整備

世田谷区では、社会的検査としてのPCR検査体制を整備するため、1日当たり約300件の検査能力を500件に増やし、「プール方式」を導入し2000～3000件に強化することを紹介しました。



高齢者施設のみならず、医療や介護、保育関係者ら社会的機能に必要な分野で働く人たち、全てを対象に社会的検査ができるような体制を整えることが必要ではないか。

さらには全市民を対象に「誰でも いつでも 何度でも」検査できる体制を構築し、感染の早期発見や隔離・治療に繋げ、感染の広がりを抑えこむことが必要ではないかと質問しました。

市長は、市としては、ハイリスクの方がいる施設にウイルスを持ち込まない体制をいかに作るか考えてきた。検査体制の充実と対象の拡大に最善を尽くすが、一つの市としては限界がある。国として、財源も含めた体制づくりをやっていく必要がある。国に要望する中で船橋の取り組みを続けていきたいなどと答弁しました。

## コロナ禍でも笑顔のある学校

8月22日の朝日新聞「声」欄に投稿された「コロナ禍でも笑顔のある学校に」を紹介し、確かに学習の遅れを取り戻すことや感染



症対策は大切ですが、それに躍起になることで学校から子どもたちの笑顔がなくなってしまうか。子どもが今、笑っているか、安心して

しているか。本市の学校現場の現状について質問しました。

市は、指摘の通り、学校から子どもたちの笑顔が消えることはあってはならないと思う。しかし、染症対策が子どもたちに大きな負担になっていることは事実。従来通りの教育を行うことは難しく、感染を防ぎつつ、最大限の教育活動ができるよう努めている。

「前を向いて静かに給食を食べる」などは継続しているが、子どもたちが楽しみにしている運動会・体育祭は時期や内容を変更し実施している。修学旅行は中止したが、各校で代替行事を検討している。従来通りの教育活動は難しい

コロナ禍でも笑顔のある学校に

小学校教員（神奈川県）

学校は「楽しくなければならぬ」とずっと思っていました。でも今、コロナ禍の休校措置の影響で学習の遅れを取り戻すべく、授業時間確保が最優先される場所になっています。

子供たちが楽しみにしている行事や学級活動が削られています。例えば運動会はありません。修学旅行中止の決定を聞き、涙する6年生もいました。遠足や子ども祭りの行先も不透明なままです。教科の中でも、水泳学習は取りやめです。

さらに感染症対策で、子ども同士で楽しく遊ぶなどの関わりが制限されています。休み時間でも肌を触れ合って遊んでいると、離れなさい、と指導するのが一般的です。給食もグループでおしゃべりをして食べるものでなく、全員が同じ方向を向き、静かに食べるのが当たり前になってしまいました。

確かに学習の遅れを取り戻すことや感染症対策は大切ですが、それに躍起になることで、学校から子どもたちの笑顔がなくなってしまうのは本末転倒だと思うのです。子どもが今、笑っているか、安心して

いるか、一番大切なことを私たち大人は見失ってはならないと思います。

が、子どもたちの笑顔のため、学校と教育委員会が連携し、工夫して教育活動を行って行きたいなどと答弁しました。

## 台風シーズンを迎えるに当たって（防災対策）

昨年県内を襲った台風15号、19号、21号によって県内や、全国各地で甚大な被害が発生しましたが、船橋市内においては幸いにも大きな被害はありませんでしたが、台風の進路が少しでもずれていれば市内でも大きな被害が発生していた可能性があります。

これらの台風への対応を教訓に市の地域防災計画や防災対策の見直しや拡充を提言しましたが、改善されたのか質問しました。



### 対策本部の設置基準は

（質問）地震の場合は震度5強で対策本部を設置することになっているが、風水害などでは設置基準がなかったことを指摘したが、設置基準をどのように整備したのか。

（答弁）これまでは、注意報や警報等が発令された後に体制を敷くことにしていたが、新たに

注意報や警報が「予想」される時にも水防本部や災害対策本部の体制を敷くことを加え、より迅速に対応できる配備体制とした。

### 電源供給体制の整備の進捗は

（質問）台風15号によって大規模かつ長時間の停電が発生したことから「電源供給体制の

整備」を地域防災計画に追加したがこの1年で整備は進捗したのか。

(答弁) カセットガスボンベ式発電機を公民館に拡充した他、防災倉庫にガソリン式発電機の配備を拡充した。

また、災害時に電気自動車等を活用した電力確保について事業者と協議を進めている。

千葉県と東京電力パワーグリッド株式会社と協定を締結したことから市内の病院や社会福祉施設等へ優先して電源車を配備することについて調整している。

(要望) 電源供給体制の整備について、一般避難所に指定された市内の公民館、小中学校などに太陽光発電設備と蓄電池を整備することを再度要望しました。

## 遅かった避難所の開設

(質問) 台風19号の対応では、災害情報サイトの立ち上げが千葉市などに比べ遅かったこと。避難所の開設も



10月12日の午前中ですでに激しい雨が降っており、前日夜に開設した千葉市などに比べ遅かったこと。避難所に食料や水を持参できなかった方への対応がなされていなかったこと。

避難所の夜間の職員配置が1名では緊急時に対応できないのではないかと指摘したが、これらは改善されるのか。

(答弁) 指摘のあった「災害情報サイトの立ち上げ」や「避難所の開設時期」について、非難される方が余裕を持って安全な行動ができるよう、風雨が強くなると予想される前に、明るいうちに迅速・適切に対応することにした。

避難する時に食料や飲料水などを持って来れなかった方には食料等を提供するようにしていく。避難所の夜間の配置職員については、複数の職員が当たることにした。

## 聞こえなかった防災無線

(質問) 行政防災無線が聞こえなかったという

声も市民からたくさん寄せられた。行政防災無線の放送内容や放送回数、インターネットを使えない方への対応



など市民への情報伝達手段は改善されるのか。

(答弁) 行政防災無線は風雨が強くなると聞きづらくなる。台風などが予想される時は早めの避難行動を促すことが重要、避難勧告や避難所開設の情報を発信する際は、聞き取りやすい内容を早めに繰り返し放送することになっている。

インターネットが使えない方への対応として行政防災無線の内容を自動で電話にかけて知らせることや、聴覚障害者へFAXを送信する経費を今議会上に上程した。

千葉テレビなどと「災害時における放送要請に関する協定」を締結しているので積極的に活用していく。

## コロナ禍の複合災害の備え

### 避難所定員削減の影響

(質問) 今年もすでに台風9号、10号と大型で猛烈な台風が日本に接近し大きな被害が発生している。台風10号では、九州で少なくとも500万人以上に避難指示・勧告が出され20万人を超える人たちが避難所に身を寄せ、新型コロナウイルスの感染予防の観点から、避難所の定員を削減したことから、満員になる施設が相次いだと報道されている。そのような場合どのように対応するのか。

(答弁) 本市では避難所に間切りを使用することで、空間を有効利用し、多くの避難者を受け入れることができる。それでも避難所が満員で足らなくなった場合には、協定を締結している民間事業者の施設活用を図っていく。

### 自宅避難、誤解を与えないよう

(質問) 避難所への避難について、災害時危険な場所にいる人は避難することを原則とする

が、自宅での垂直避難や可能であれば親戚や友人宅等、避難をすることも検討するなどとして、自宅避難を奨励しているように思われるが、市民に誤解を与えないように周知する必要があるが、どのように考えているのか。



(答弁) 「3蜜」を避けることが必要なことから自宅での垂直避難や親戚・知人宅等へ移動することも避難行動であることを広報等で知らせている。しかし、避難所へ行くことをためらうことで、被害を受けてしまっては本末転倒。危険と思った時、避難した方がいいと感じた時は、躊躇せずに早めに避難所に避難することを丁寧に周知していく。

## 感染者が確認された場合の対応

(質問) 発熱などの症状が確認された場合、空き教室などの専用スペースを確保し、一般の避難者とトイレなどの共有部分を分け、保健所と協議の上、適切な対応をとるとしているが、感染者が確認された場合やクラスターが発生した場合どのように対応するのか。

(答弁) 発熱が確認された場合、滞在する場所などを分ける対応をし、保健所に相談。保健所の判断によってPCR検査を行い、陽性判定の場合、濃厚接触者のPCR検査を行う。

陽性者の症状によって、医療機関またはホテルに搬送する。感染者が使用した場所等については消毒を行い、避難所の閉鎖については、感染の状況、気象状況、近隣の避難所の状況などを勘案し判断する。

## オスプレイの習志野演習場での訓練

6月30日に船橋市、八千代市、習志野市の各市長の連名で、木更津駐屯地への陸上自衛隊オスプレイ暫定配備



に関して、習志野演習場での訓練が想定されることから、事前にオスプレイの飛来や機体の安全性、生活環境への影響などについて、地元住民や議会、各市に対し十分説明することを求める要望書を防衛大臣に提出しました。

すでに7月に木更津駐屯基地には2機のオスプレイが配備され、11月には習志野演習場での訓練が始まる可能性があります。防衛省との折衝について質問しました。

市は、8月24日に防衛省北関東防衛局から「陸自オスプレイが習志野演習場や県内の他の飛行場等に飛行するかどうか現時点では確定していない。習志野演習場や県内飛行場を使用する際は、関係自治体への説明は適切に対応していく」との回答があったと答弁しました。

9月から始まる木更津基地周辺空域及び洋上訓練について、十分な説明がないまま行われようとしていることを指摘し、習志野演習場での訓練について十分な説明がなかった場合、市は「習志野演習場でのオスプレイ訓練は認められない」との態度表明することを求めました。

市は、指摘のように、十分な説明が為されない場合は県や八千代市、習志野市と調整しながら対応を検討していくと答弁しました。

## 定額給付金（10万円）の申請率は99.17%

市から定額給付金の申請や給付状況の報告がありました。対象世帯308.581世帯の内、8月25日現在申請者は306.023世帯で申請率は99.17%。支給済は301.218世帯で支給率は97.61%となっています。未申請者約2.500世帯の内、郵便が届かなかったものが780世帯。未申請者の割合が比較的高い世帯は10代、20代の若い世帯や在住外国人世帯などです。辞退世帯が69世帯ですが、未申請者の中にも辞退した方がいると思われるとの報告でした。オンライン申請などで混乱がありましたが、総じて職員の奮闘で定額給付金はほとんどの世帯に給付することができたと言えます。

